

インド。聖母は分裂の傷を癒す重要な鍵

ムンバイ大司教、グラシアス枢機卿のインタビュー。ローマ。2012年6月17日 (ZENIT.org)

枢機卿様、猊下の紋章には、正義の秤と洗足の絵、聖母の“M”の他に握手の図がありますが、それはなぜですか。

= 握手は和解の象徴です。私は自分の信条を「すべてをキリストにおいて和解させる」としました。対立している人々、困難な状況にいる人々を仲直りさせたい、対立する陣営の橋になりたい、共同体の中、小さな問題の中においても平和を築きたいという熱い望みをいつも持っていました。それは主が私の心に植えてくださった自然の望みです。



教皇ヨハネ・パウロ2世は、猊下にムンバイの司教、その後大司教になるよう頼まれました。ご自分の召しだしと教会のために、教皇様から特にどんな言葉を受けられましたか。

= 私はヨハネ・パウロ2世とは何度もお会いしました。お会いする度に、インドへの祝福を頂き、励ましの言葉を与えようとされました。インドに対する大きな愛情を示してくださいました。

ヨハネ・パウロ2世がマザーテレサと同様にインド人にとっても好かれているのはなぜですか。

= 思うに、それはヨハネ・パウロ2世が信念の人だからでしょう。前教皇は深い信仰の人でした。先日、私たちは教皇様のインド訪問25周年を記念したところです。カテドラルの近くにヨハネ・パウロ2世の像を置きましたところ、カトリックもヒンドゥー教徒も福者ヨハネ・パウロ2世に祈るために、そこに足を運んでいます。ヒンドゥー教徒でさえ、前教皇を神の人だと認めていました。彼が話すこと、彼が行うこと、彼の生き方を見聞きして、本当に神様を伝えているのだと感じたのです。

猊下はインドでは十人目の枢機卿です。これは南アジアの教会がますます重要になっていることを示します。これについてはどうお考えですか。

= インドは急速に発展しています。私たちのインド教会、神学者たち、司教たち、司祭たちは普遍教会に貢献をしつつあります。今まで私たちは非常に多くをもらったのですから、これらか沢山のことを与える義務があります。

インドの教会の歴史は2千年にも及ぶのに、カトリック教会、あるいはキリスト教、はまだ外国のもののように見られています。これは正しいですか。正しいならなぜでしょうか。

= おそらく一つの理由は、私たちのリーダーと司教たちがいつも外国人だったからではないでしょうか。しかし、今は外人の司教は一人もいません。また、私たちが典礼、つまり祈りの時を、十分に土着化することができていないことも理由でしょう。この意味で、私は典礼秘蹟省におりますが、私たちは少しローマ的であり続け、十分にはインド的ではなかったと言えるでしょう。私の考えでは、土着化が進めば進むほど、私たちがインドのものだと考える人は増えるでしょう。インドにおけるキリスト教の歴史は紀元52年ころの使徒時代にまで遡ります。使徒聖トマスがインドを訪れたと考えられています。

インドは四大文明の一つを開花させたところで、多様な伝統を誇っています。最近、あるインタビューで猊下はこの多様な文化の伝統が危機に曝されていると警告されました。

= 原理主義者たちが問題を作り出し、キリスト教徒や他の宗教の人々を苦境に陥れているのです。このこ

とは我が国にとって良いことではありません。と言うのは、インドの豊かさと美しさは様々な宗教と文化を包み込むところにあると思うからです。誰かがすべては一つに統一せねばならないと主張し始めると、この美しい多様性、私たちがもっている互いの尊敬が危険にさらされるのです。宗教は、分裂をもたらす力ではありません。ここ数十年、いくらかの政党は政治的な目的のために宗教を利用しています。

はっきり言うと、それはヒンドゥー教の原理主義者たちのことですね。彼らはどうして、この状況を変えたいと望むのですか。

= ヒンドゥー教の原理主義はごく最近の現象です。他の原理主義に対する反動として始まったのですが、いくつかの政党によって利用されています。その政党は「もしあなたの宗教が脅威にさらされていると思うなら、我々に一票を。我々はあなたの宗教を守ります」と言い、票を獲得しようとするのです。

その戦術によって権力を握ろうと考えているのですか。

= はい、これは危険な手法です。私はそれらの政党の何人かの指導者に、これは非常に危険な戦法だと警告しました。彼らが実権を握ることを誰も望んでいません。それゆえに、これは危険なのです。

でも、それらのグループはインド人がヒンドゥー教によって統一されることを望んでいるのですか。

= 普通のヒンドゥー教徒は他の宗教の信者に対し寛容で理解を示す人々です。原理主義者はほんの一握りですが、彼らはインドをヒンドゥー教の国にしたいがっています。インドの憲法を作った我々の先輩たちは、インドが政教が分離した国であるとはっきり言いました。

このような状況下で福音宣教をどのように進めているのですか。

= このような現状において、第一に、私たちにとっては正真正銘の信者になることが必要だと思います。つまり私たちの信仰を深め、イエスが私たちの救い主、唯一の救い主、神の子、イエスの他に救いはないことを示す必要があると。

聖母の役割は何ですか。

= 聖母マリアは、ヒンドゥー教徒を含めた皆から愛されています。私の小教区では毎週水曜日、朝の8時半から夜の9時半まで永久の救いのマリア様に一時間の祈りを九日間しますが、毎水曜日に7万から8万人ほどが参加します。そのうちの6～7割はキリスト教徒ではありません。彼らはただマリア様に祈りに来るだけです。聖母は、自分たちを愛し世話し恵みをもたらす、和解をもたらす母であると考えています。

狛下はかつて今日のキリスト教徒は聖金曜日のただ中っていると発言されました。復活の日曜日は来ますか。

= 復活の日曜日は必ず来ます。私はこの点について露ほどの疑いも持っていません。ヒンドゥー教徒のリーダーたちから、彼らがオリッサ州とカルナータカ州（注、右の地図の20と12）で起きていること（注、キリスト信者に対する暴力的迫害）に心を痛めていると言われました。ヒンドゥー教徒から「枢機卿様、どうか、暴力を使う者たちに対する厳しい非難の声明を出してください」とも言われたこともあります。私たちはこの困難を克服する日が来て、あの人々が目覚めると確信しています。キリスト信者と教会とイエスにとって復活の日曜日が来ることは間違いありません。

